第２節　吉原湊をめぐる中世遺跡の概要

池谷 初恵

はじめに

富士塚の立地する元吉原地区は古代東海道が通り、富士塚造営に先立つ中世においても湊・宿・街道などの存在が想定される。しかし現在までのところ、中世の吉原湊や宿を解明するための具体的な考古学資料には恵まれていない。

本稿では、富士塚造営の背景としての吉原湊・宿・街道を明らかにするため、富士市内および周辺地域の遺跡の出土遺物を分析し、遺跡の時期的変遷や遺物の特徴を明らかにした上で、中世の元吉原地区および周辺の街道を検討する。

１．富士市および周辺地域の中世遺跡の概要

これまで富士市においては、著名な武士の館や戦国城館、中世の寺社等が知られていなかったこともあり、中世遺跡についてあまり注目されてこなかった経緯がある。

戦前に遡る古い発見資料では、比奈地区の医王寺経塚をあげることができる（静岡県 1992）。経塚は天平年間の創建とされる古刹、医王寺境内で発見されたもので、経塚遺物は昭和９年に風で倒れた大木の根元から出土したとされる（駿河郷土史研究会 1989）。「承安四年」（1174）の線刻銘のある経筒と、和鏡２面、白磁合子２点が出土している。12 世紀末は東海・関東地方で経塚造営が盛行した時期であり、富士地域においても埋納思想が定着していたことを示す良好な資料である。

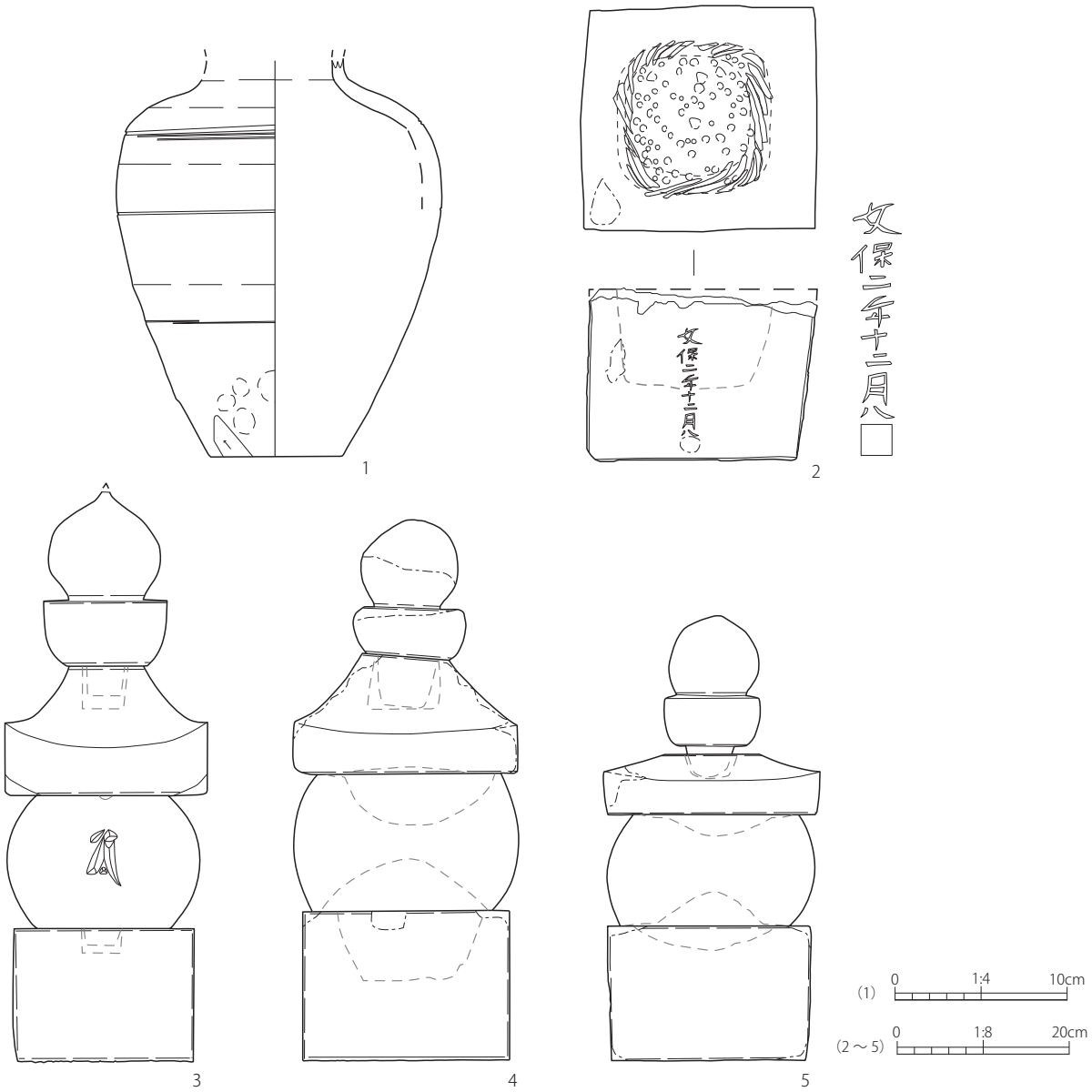
また、昭和 39 年、富士塚に程近い今井地区妙法寺（毘沙門天）西側の砂丘上で、五輪塔、蔵骨器、人骨などが多数発見された（鈴木 1981）。当時の記録によれば、これらの遺物は公園をつくるための造成工事中に砂丘を７～８m削平した際に発見されたと記されている。現在、富士山かぐや姫ミュージアムに保管されている資料は、五輪塔４基と、「文保二年十二月八日」紀年銘のある地輪１基、常滑三筋壺１点である（第 37 図）。五輪塔３基は、組合せは不確実ながら 14 世紀に位置付けられ、他の１基は 15 ～ 16 世紀のものとされる（藤村 2016、松井他 2007、溝口 2009・2012）。常滑三筋壺には人骨片が入っていたとされ、蔵骨器として埋納されたものである。中野晴久氏の編年で常滑２型式（1150 ～ 1175 年）に比定されるもので、文保２年（1318）の五輪塔地輪とは約 150 年の年代差が生じることになる（註 1）（中野 2005・2012）。五輪塔・常滑壺ともに出土状況が明らかでないため、五輪塔の正確な組み合わせや三筋壺との関係などは検証することはできないが、少なくとも 12 世紀後半から 16 世紀にかけての長期間にわたり砂丘上に墓地や宗教施設が造営されていたことは推測できる。

蔵骨器と推定されるもう１例として、岩本地区の鎌研第４号墳（通称「念信園古墳」）で発見された瀬戸産の壺３点が報告されている（第 38 図）（佐藤 2010）。個人が採集した資料であり、出土状況は不明である。古瀬戸四耳壺２点と梅瓶１点で、いずれも口縁部は意図的に打ち欠かれている。藤澤良祐氏の編年に拠れば、古瀬戸前期第Ⅳ段階（13 世紀後半）に位置づけられる（註 2）（藤澤 2007）。出土地の近くには、実相寺や永源寺など中世に建立された寺院があり、また五輪塔などが集石された場所もあるという。これらのことから周辺には墓域が形成されていたと考えられる。

以上の３地点の中世遺物は、発掘調査によるものではないため、遺構や出土状況などが不明であるが、経塚や蔵骨器など宗教的な遺物であることが特徴である。

前述のように、著名な中世遺跡が存在しなかった富士市では、中世を主眼とした発掘調査の事例はあまり多くはないが、西富士道路建設に伴う広範囲の発掘調査において中世墓が検出された事例がある（富士市教委 1981ａ、静岡県考古学会 1997）。出口遺跡（註 3）では、中世～近世の土坑が 400 基以上検出され、人骨・副葬品から土坑墓と認定できた遺構は 16 基である。このうち遺物から確実に中世と断定できる土坑墓は２基である。その他、ほとんどの土坑は出土遺物がなく墓と特定できないが、形状の類似性からみて、多数の土坑墓が存在し、中世から近世にかけての大規模な墓域が形成されていたと考えられる。

このような状況の中、平成 28 年度に富士山かぐや姫ミュージアムにおいてテーマ展示「富士へとつながる海の道―吉原ミナトの交通史」が開催され、古代から近世



第 37 図　今井中世五輪塔群出土資料

に至る吉原湊に関連する資料が紹介された。中世に関連する資料では、前述の今井五輪塔群と常滑三筋壺や鎌研第 4 号墳出土古瀬戸壺が展示された。また関連して、藤村翔氏が富士市内の中世墓関連資料を報告し、吉原湊や富士川渡川ルートなど交通の要所に中世墓が分布していることを明らかにした（藤村 2016）。

一方で、富士市と隣り合う富士宮市と沼津市では中世遺跡の調査が進んでいる。富士宮市では元富士大宮司館跡（大宮城跡）、浅間大社遺跡、村山浅間神社遺跡、山宮浅間神社遺跡など、富士山信仰に関連する遺跡が調査されている。とくに、富士大宮司館跡（大宮城跡）と浅間大社遺跡は、12 世紀代から遺物が確認されており、大宮司富士氏の居館である富士大宮司館跡では、その権威を示す威信財としての貿易陶磁が出土していることでも注目された。また、富士大宮司館跡は 16 世紀になると城郭に造りかえられており、今川氏と武田氏の攻防の場となった。

沼津市では、興国寺城跡、中原遺跡、西通北遺跡が調査されている。興国寺城跡は、根方街道沿いに位置する城郭遺跡で、伊勢宗瑞（北条早雲）の築城とされ、小田原北条氏滅亡後は中村氏、天野氏の居城となった。中原遺跡・西通北遺跡は砂丘上または浮島沼縁に位置する古代東海道沿いの遺跡である。8 ～ 9 世紀代を中心に遺構・遺物が多く確認されているが、包含層から一定量の中世遺物が出土している。

２．富士市および周辺地域の出土陶磁器

（１）調査方法・分類・時期区分

富士市および周辺地域において発掘調査の出土遺物（主に陶磁器）および採集資料を、遺跡ごとに産地・種別・型式ごとに分類し、点数を集計した。（第４～７表）

型式分類・時期比定については、以下の分類基準を参考とした。

貿易陶磁（中国産陶磁器）：菊川町教育委員会 2000『横地城跡　総合調査報告書　資料編』、菊川シンポジウム実行委員会 2005『陶磁器から見る静岡県の中世社会－東でも西でもない』

瀬戸美濃（瀬戸美濃産陶器）：藤澤良祐 2007「第１章　総論」「編年表」『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』愛知県

常滑（常滑産陶器）：中野晴久 2012「第１章 総論　第３節 常滑窯」「編年表」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県

渥美（渥美・湖西産陶器）：安井俊則 2012「第１章 総論　第２節 渥美窯」「編年表」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県

なお、本稿においては、瀬戸美濃系施釉陶器・瀬戸美濃産陶器類・瀬戸美濃焼などを略して「瀬戸美濃」と記述する。常滑焼・常滑産陶器は「常滑」、渥美焼・渥美湖西窯製品は「渥美」と略記する。また、志戸呂窯製品、初山窯製品については、「志戸呂」、「初山」と記す。

時期区分と該当する主な各陶磁器分類は第３表の通りである。なお、本稿では上記Ⅰ～Ⅵ期の時期区分で遺物の年代を記述し、詳細な分類・型式別の点数については別稿において報告する予定である。

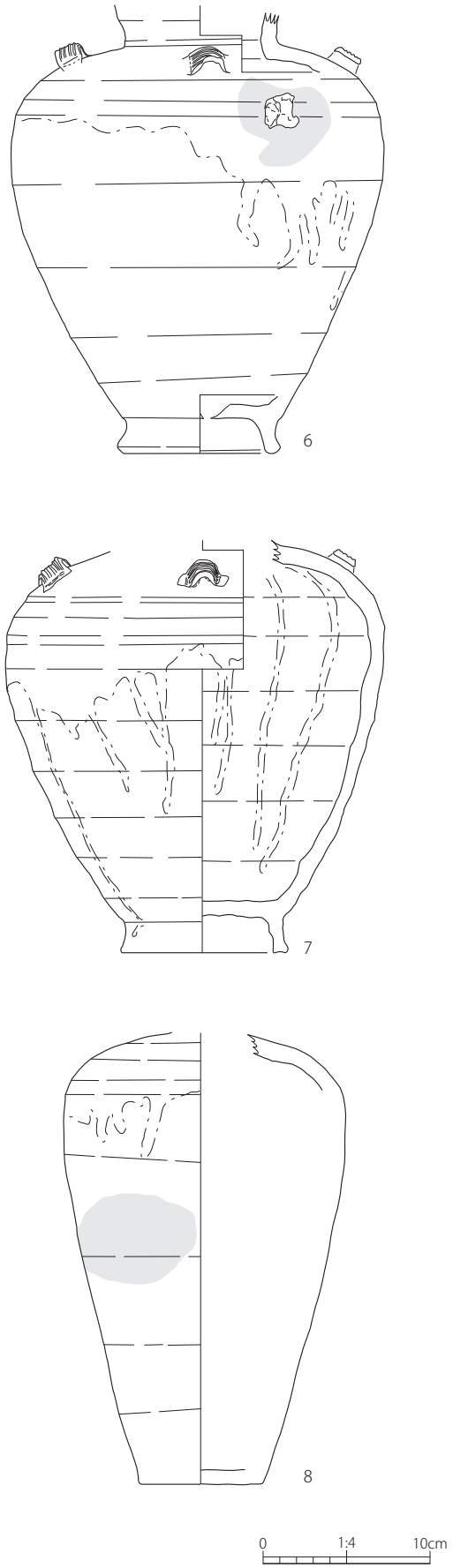
（２）対象遺跡と調査結果　（第４～７表）

今回、型式・時期を調査した遺跡は、富士市 14 遺跡、富士宮市２遺跡、沼津市２遺跡の計 18 遺跡である。出土陶磁器を分析するにあたり、前述の遺跡概要に示した遺跡のほか、明確な中世の遺構を検出できないものの、包含層からの出土や他の時代の遺構に混入した中世遺物も含めて分類・集計を行った。

富士市

元吉原遺跡第３地区

元吉原宿遺跡第３地区は元吉原地区にあり、戦国時代～近世初頭の吉原宿（元吉原宿）の範囲内にある（富士



第 38 図　鎌研第４号墳出土資料

第３表　時期区分と陶磁器分類

	年代	貿易陶磁　＊主な分類のみ	瀬戸美濃	常滑	渥美	山茶碗
Ⅰ期	11 世紀後半 ～ 12 世紀前半	白磁碗Ⅱ・Ⅳ		1a・1ｂ型式	1a 型式	3・4 型式
Ⅱ期	12 世紀後半 ～ 13 世紀前半	青磁碗Ａ青磁同安窯系碗 白磁碗Ⅴ	古瀬戸前期Ⅰ・Ⅱ期	2～5 型式	1ｂ～3a 型式	5・6 型式
Ⅲ期	13 世紀中葉 ～ 14 世紀前半	青磁碗 B0・B1 白磁碗ⅢⅨ	古瀬戸前期Ⅲ・Ⅳ期 中期Ⅰ・Ⅱ期	6a～7 型式	3b・3c 型式	7・8 型式
Ⅳ期	14 世紀後半 ～ 15 世紀中葉	青磁碗 B2・B3・C2・D1 白磁皿Ｂ	古瀬戸中期Ⅲ・Ⅳ期 後期Ⅰ～Ⅲ期	8・9 型式		9・10 型式
Ⅴ期	15 世紀後半 ～ 16 世紀前半	青磁碗Ｂ４・D2・E1 白磁皿 C1 染付碗皿Ｃ・皿 B1	古瀬戸後期Ⅳ古 新期大窯１～３前段階	10・11 型式		11 型式
Ⅵ期	16 世紀中葉 ～ 16 世紀後半	青磁碗 E2　白磁皿 C2 染付碗皿Ｅ・皿 B2	大窯３後～４後段階	12 型式		

市教委2015)。わずか６㎡の面積の発掘調査であったが、Ⅵ期の瀬戸美濃の擂鉢と皿各１点が出土した。また、調査地点の地層は砂層と安定層を交互に堆積していることが確認され、風砂・高波・津波等の自然災害の影響が認められている。

三新田遺跡

三新田遺跡は元吉原宿遺跡の東に位置する。1981 年と 1993 年に発掘調査が行われ、古墳時代前期初頭と奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡等が多数検出された（富士市教委 1983・2000)。中世の遺構はないが、D 地区において併行する２本の溝が検出されており、道路状遺構の可能性が指摘されている。

三新田遺跡では、Ⅱ期の貿易陶磁青磁１点、Ⅱ～Ⅳ期の常滑、渥美の甕・片口鉢計８点が出土している。また、瀬戸美濃はⅤ･Ⅵ期の天目茶碗、皿、盤類など５点、志戸呂皿１点が出土している。14 世紀代の遺物はごく少量であるが、中世前半から後半にかけて一定量の遺物が認められたことは、中世において継続的に集落等が営まれたことを示している。

柏原遺跡

柏原遺跡は『三代実録』貞観六年（864）十二月十日条に記載され、これ以後廃絶したとされる「柏原駅」の比定地である。発掘調査は 11 地区で行われ、奈良・平安時代の住居跡､掘立柱建物跡等が検出されている(富士市教委 2012・2013)。

中世の遺物は第６地区の溝と掘立柱建物跡の覆土からⅡ期の常滑片口鉢各１点出土している。貿易陶磁・瀬戸美濃については未確認である。

善得寺城跡・東泉院跡

東泉院は江戸時代の吉原宿（新吉原宿）をのぞむ高台に位置する密教寺院である。平成 19 年度より、富士市では東泉院の最後の住持を務めた六所家が所有してきた膨大な資料、建物の総合調査を開始し、その一環として敷地内の埋蔵文化財の発掘調査を行っている（富士市教委 2014)。

調査の結果、出土遺物の大半が近世の陶磁器・土器・瓦であったが、少量ながら中世遺物が認められた。中世陶器はⅣ～Ⅵ期の瀬戸美濃５点、Ⅱ～Ⅴ期の常滑９点、Ⅱ期の渥美１点である。14 ～ 15 世紀のものが多いが、Ⅱ期の渥美甕や常滑壺なども出土しており、中世前半の遺物も確認された。

東平遺跡

東平遺跡は古代の富士郡家に比定される遺跡で、８～10 世紀の大規模な集落跡が調査されている。遺跡範囲は広大で、93 地区で発掘調査が行われている。今回はこのうち３地区、28 地区の出土遺物を調査した。

３地区　西富士道路建設のため広大な範囲を調査した地区で、中世陶磁器も多数出土している（富士市教委 1981 ａ・1981 ｂ)。貿易陶磁はⅡ・Ⅲ・Ⅴ期の青磁、白磁、天目茶碗など 18 点出土しているが、大半がⅢ期の青磁碗である。瀬戸美濃はⅢ～Ⅵ期の天目茶碗、皿、盤類、擂鉢など 83 点で、Ⅳ・Ⅴ期の製品が多い傾向がある。常滑・渥美はⅡ・Ⅲ・Ⅴ期の甕、片口鉢が 29 点あり、Ⅴ期のものが半数以上を占める。その他、志戸呂･初山の皿、擂鉢が４点出土している。

28 地区　28 地区は東平遺跡の南部、三日市廃寺跡と隣接する地区に位置する。古墳時代中期と７～８世紀の住居跡、掘立柱建物跡が検出されている（富士市教委 2001)。

貿易陶磁はⅡ・Ⅲ期の青磁、白磁の碗、皿 11 点で、瀬戸美濃はⅢ～Ⅴ期の天目茶碗、皿、盤類など 23 点で

ある。常滑・渥美はⅡ～Ⅴ期の甕、片口鉢が66点で、Ⅲ・Ⅳ期のものが多い。

本地点ではかわらけがまとまって出土していることが特徴で、12～13世紀の小皿のみの一群と14世紀後半～15世紀代の大小組み合わせの一群がある。破片資料を含めると、かわらけの出土数は100点あまりで、富士市内では最も多い。また、三重県産の南伊勢系鍋が出土していることも注目される。

三日市廃寺跡（東平遺跡16地区）

三日市廃寺は、東平遺跡の南東部に隣接する遺跡で、古くから奈良時代の瓦が散布していたことが知られる。1994年に発掘調査が行われ、7～9世紀の住居跡、掘立柱建物跡が検出された（富士市教委2002）。寺院に関連する遺構は確認されなかったが、8世紀前半の瓦が多数出土している。中世の遺物は、Ⅴ期の常滑片口鉢1点が出土したのみである。

出口遺跡

出口遺跡は前述の中世～近世の墓が多数検出された遺跡である（富士市教委1981 a）。

第21号土坑墓から、副葬品としてⅥ期の初山の天目茶碗1点、かわらけ小皿1点、小柄1点、六道銭として納めた中国銭6枚がある（第39図）。他に、包含層からⅢ期の瀬戸美濃梅瓶、Ⅴ期の常滑甕が出土している。

中原遺跡

中原遺跡は東平遺跡の北部に位置し、同じく西富士道路建設のための調査が行われた（註4）（富士市教委1981）。Ⅳ・Ⅴ期の瀬戸美濃、皿3点、志戸呂皿1点が出土した。

浅間林遺跡

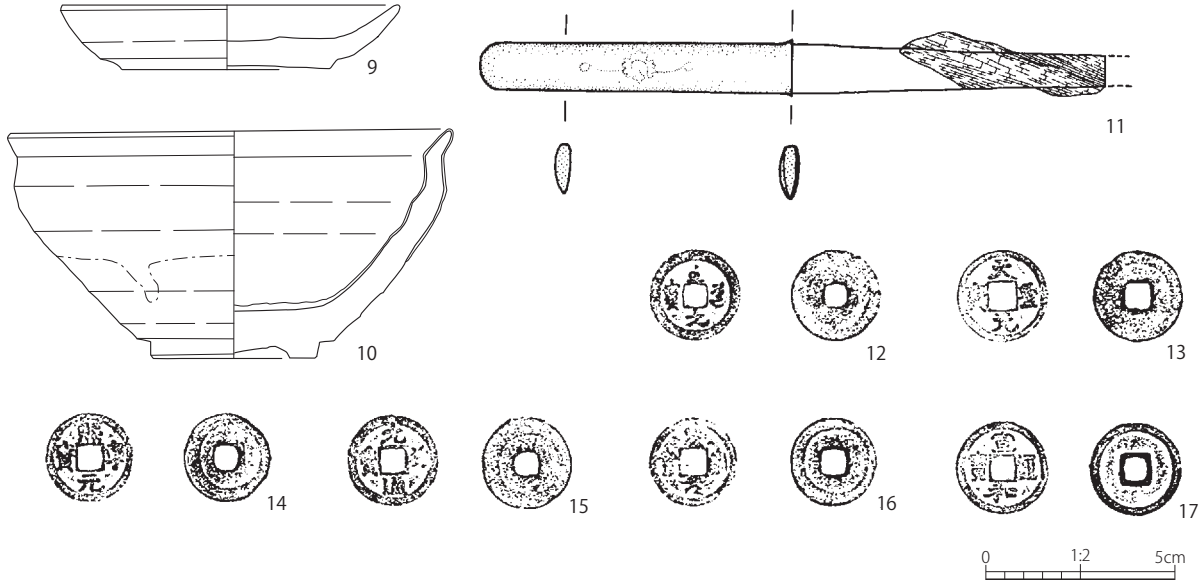
浅間林遺跡は富士川西岸の河岸段丘上に位置する縄文時代～近世に至る複合遺跡である（富士川町教委1981、1991）。各時代の遺構、遺物が重層的に検出されているが、中心となる時代は縄文時代後・晩期と平安時代である。

貿易陶磁はⅡ・Ⅲ期の青磁・白磁の碗・皿7点である。瀬戸美濃はⅢ～Ⅵ期の天目茶碗、皿、盤類、擂鉢など63点で、Ⅳ・Ⅴ期の製品が多い。常滑・渥美はⅡ～Ⅴ期の甕、片口鉢が30点あり、Ⅳ期のものが多い傾向があるが、Ⅱ期の三筋壺が2点、渥美甕1点がある。

また、志戸呂皿、盤類各1点、Ⅱ期の東遠江系山茶碗・小皿4点、長崎県西彼杵半島産の滑石製石鍋などが出土している。

半在家遺跡

半在家遺跡は浅間林遺跡と同様、富士川西岸の河岸段丘上に位置し、弥生時代末～古墳時代初頭の集落、中世～近世の土坑墓、堀跡、石積遺構などが検出されている（富士川町教委1986）。中世～近世の各遺構は時期を特定できていない。貿易陶磁Ⅱ・Ⅲ期の青磁2点、Ⅴ期の瀬戸美濃天目茶碗と平碗各1点が確認できた。



第39図　出口遺跡出土資料

荻館

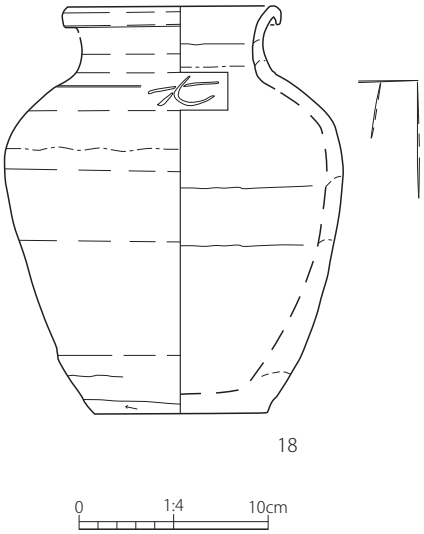
戦国時代の荻氏の居館跡と伝承される遺跡で、江戸時代末の絵図には土塁に囲まれた一町四方の館が描かれているが、現在は土塁の一部が残っているのみである（富士川町教委 1979）。

貿易陶磁はⅢ期の青磁碗１点、瀬戸美濃はⅤ・Ⅵ期の天目茶碗、皿、擂鉢など 11 点、Ⅵ期の初山皿１点、Ⅱ・Ⅲ期の常滑甕、片口鉢が各１点が出土している。数は少ないが、中世全般にわたる遺物が出土しており、戦国時代に限定された居館ではなく、長期間営まれた遺跡と考えられる。

破魔射場遺跡

破魔射場遺跡は富士川西岸の段丘上の遺跡で、東名高速道路富士川サービスエリア改良工事に伴って、広大な面積の発掘調査が行われ、縄文時代中･後期、古墳時代、平安時代の遺構・遺物が多数検出された（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所〔以下静岡埋文研究所と略記〕2001）。中世の遺構・遺物は遺跡北西部のＢ区で集中しており、土坑墓 16 基が確認されている。遺物も多くがＢ区で出土している。

貿易陶磁はⅠ・Ⅱ期の青磁・白磁の碗・皿７点、瀬戸美濃はⅣ期の皿２点を確認した。常滑・渥美はすべてⅡ期の甕、壺である。他に東遠江系山茶碗が２点出土している。本遺跡の中世陶磁器は、Ⅱ期に集中する傾向が顕著にみられた。



第 40 図　沢上遺跡出土資料

沢上遺跡

沢上遺跡は岩淵地区にあり、縄文時代後期の集落と中世～近世の墓が確認されている（富士川町 1968）。出土状況の詳細は不明であるが、蔵骨器に使われたⅡ期の渥美刻文小型壺が富士山かぐや姫ミュージアムに保管されている（藤村 2016）（第 40 図）。

このほか、Ⅱ・Ⅲ期の貿易陶磁４点、Ⅱ～Ⅳ期の常滑片口鉢３点が出土している。瀬戸美濃は出土していない。出土数が少ないため、傾向はとらえられないが、渥美刻文壺は静岡県内でも出土数が限られており、注目される遺物である。

今井五輪塔群

今井五輪塔群では、前述のようにⅡ期の常滑三筋壺が出土しているが、偶然採集されたものであり、出土状況や他の出土遺物は不明である。

鎌研古墳群（念信園古墳）

今井五輪塔群の壺と同様、偶然採集されたものであり、出土状況や共伴遺物は不明である。Ⅱ期の瀬戸美濃四耳壺、梅瓶計３点が報告されている（佐藤 2010）。Ⅱ期、とくに古瀬戸前期段階の瀬戸美濃壺類の出土は、静岡県内では館跡や宗教関連遺跡で出土する傾向があり、立地を考慮すると本例は寺社か墓の遺物の可能性が高い。

富士宮市

浅間大社遺跡

浅間大社遺跡は、富士宮市宮町に所在する富士山本宮浅間大社の境内地であり、境内５地点と本殿裏の神立山地区、湧玉池などで調査が行われている。今回は富士宮市が調査・報告した社殿南側の第１～４地点（富士宮市教委 1996、2003、菊川シンポジウム実行委員会 2005）および湧玉池（富士宮市教委 2013）と、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査した社殿北側の神立山地区と推定護摩堂跡地点（静岡県埋文研究所 2009）の出土陶磁器をあわせて検討を行った。

貿易陶磁はⅠ～Ⅴ期の製品 169 点で、Ⅱ・Ⅲ期のものが９割以上を占める。青磁太鼓胴盤、白磁四耳壺、青白磁梅瓶など、威信財とされるものが出土していることが注目される。瀬戸美濃は 116 点で、Ⅱ～Ⅵ期の製品があるが、Ⅱ期・Ⅲ期は卸皿と壺類が数点出土しているのみであり、多くがⅣ･Ⅴ期の碗、皿、擂鉢などである。花瓶、香炉など神仏具が多いことも注目される。常滑は

458 点、渥美は 62 点で、山茶碗等の東海地域の製品を含めると 569 点出土している。Ⅱ・Ⅲ期のものが多い。

浅間大社遺跡では約 15,600 点（破片数）のかわらけが出土しており、出土量全体の約 9 割を占めている。とくに 12 ～ 13 世紀の小皿形態のかわらけが主体を占めており、浅間大社の祭祀に関わる遺物と考えられる。中世前半の東国では、館や寺社に関連する遺跡でかわらけが大量に出土する傾向があるが、本遺跡ではとくに小皿が卓越する特徴が確認された。

元富士大宮司館跡（大宮城跡）

元富士大宮司館跡（大宮城跡）は浅間大社遺跡の東に位置し、中世前半には浅間大社の大宮司富士氏の居館、戦国時代には大宮城として築かれた重層的な遺跡である（富士宮市教委 2000、2014）。学校、公共施設建設等に伴い、5 次の発掘調査が行われた。今回の集計は第 1 ～ 4 次については菊川市教育委員会による横地城跡総合調査における調査成果（菊川シンポジウム実行委員会 2005）、第 5 次については、報告書掲載データ（富士宮市教委 2014）と筆者の実見結果に基づいて行った。

貿易陶磁はⅠ～Ⅴ期の製品 373 点出土しており、このうちⅡ・Ⅲ期のものが 9 割以上を占める。青磁・白磁の碗・皿類が大半であるが、青磁花生、白磁水注、青白磁梅瓶、華南産の盤など威信財とされるものも多数含まれている。瀬戸美濃は 324 点で、Ⅱ～Ⅵ期の製品があり、Ⅳ・Ⅴ期の碗、皿、擂鉢などが多い。13 世紀の四耳壺、水注、梅瓶などが出土しており、これらも館の権威を示す遺物と位置づけることができる。常滑は 1,070 点、渥美は 76 点で、山茶碗等の東海地域の製品を含めると 1,280 点出土している。

元富士大宮司館跡で注目されるのは、浅間大社遺跡と同様に、かわらけが大量に出土していることである。破片数で約 33,000 点出土しており、出土量全体の 93％を占める。かわらけや威信財の陶磁器が出土していることは、本遺跡が富士氏の居館であることの証左となる。

沼津市

中原遺跡

中原遺跡は沼津市の西部、富士市から続く砂丘上に立地し、古代東海道沿いに位置する。古墳時代、奈良・平安時代の住居跡が 100 軒以上検出された大規模な集落遺跡である（沼津市教委 2016）。現在も発掘調査、整理調査が継続中であり、中世の遺構・遺物の詳細については未報告であるが、整理調査中の遺物を実見する機会を得たため、現状の概要のみ記すこととする。

貿易陶磁はⅠ～Ⅲ期の青磁・白磁の碗・皿が出土している。瀬戸美濃は多くはないが、Ⅱ～Ⅵ期までの製品がある。常滑・渥美はⅡ～Ⅳ期の甕・片口鉢・壺を確認したが、今後の整理状況により前後の時期まで広がる可能性もある。

西通北遺跡

西通北遺跡は沼津市西部、浮島ヶ原と呼ばれる低湿地帯の東端、標高 6 m に位置する。ＪＲ東海道線改良工事に伴う調査で、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所と沼津市教育委員会の 2 機関によって分割されて発掘調査が行われたが、すでに 2 地点とも報告書が刊行されているため、本稿ではあわせて検討を行う（静岡県埋文研究所 2011、沼津市教委 2013）。

貿易陶磁はⅠ～Ⅴ期の製品 91 点があり、Ⅱ・Ⅲ期の青磁・白磁の碗・皿が多い。碗・皿だけでなく、Ⅲ期の青白磁梅瓶が出土している点は注目される。瀬戸美濃は 35 点で、Ⅳ～Ⅵ期の天目茶碗・皿・盤類・擂鉢などがあり、Ⅴ期のものが多くを占める。常滑・渥美は 82 点出土しており、Ⅱ～Ⅴ期の甕・片口鉢・壺が出土している。

３．陶磁器様相から見る吉原湊・宿・街道

最後に、これまで述べてきた陶磁器の出土状況を分布ごとに整理し、中世の街道と吉原湊・宿の位置づけを検討してみよう。

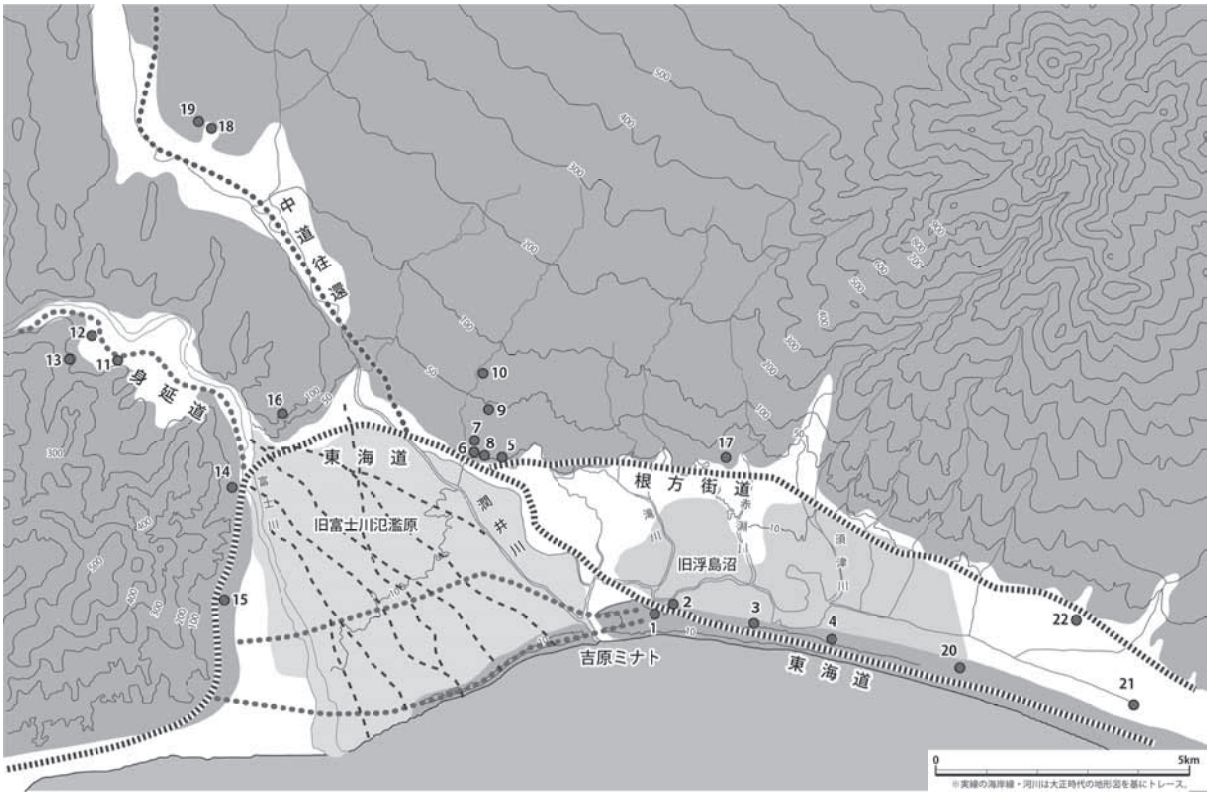
富士川左岸の田子の浦砂丘上の元吉原地区には、元吉原宿遺跡、三新田遺跡など、数は少ないものの中世全般にわたる遺物が出土している。同じ砂丘上に立地する沼津市の中原遺跡、西通北遺跡でも一定量の遺物が確認でき、とくに中世前半の遺物が多い。田子の浦砂丘上には、富士市から沼津市にかけて古代の集落が濃密に分布しており、古代東海道の柏原駅が置かれたことも知られているが、中世においても全般にわたる遺物が出土しており、古代東海道が中世にも継続して使われていたことが確認できた。

つぎに古代に郡衙がおかれた東平遺跡周辺の伝法地区の状況をみる。東平遺跡ではⅡ～Ⅴ期の遺物が出土しており、中世全般にわたるが、北側の 3 地区ではとくに 14 世紀後半～ 15 世紀前半の遺物が多い傾向がある。東側の善得寺城跡・東泉院跡では 15 世紀後半～ 16 世

紀前半の遺物が集中している。また、これらの遺跡の東側は古代東海道と山沿いの根方街道が結節する場所とされており、さらに富士宮市方向へ通じる中道往還（右左口路）（海老沼 2008　佐藤 2015）にも接している。富士宮市の浅間大社遺跡と富士大宮司館跡の出土遺物は、富士市内の遺跡と比べて隔絶した質・量であり、居館や宗教施設の求心力をよくあらわしている。静岡県東部でこれらに匹敵する遺跡は、鎌倉北条氏の本拠である伊豆の国市御所之内遺跡（史跡北条氏邸跡・円城寺跡）や三島市の三嶋大社境内遺跡のみである。12 世紀になり、富士宮地域にこのような居館・宗教・城郭などの核となる場が形成されたことにより、東海道の東西から富士宮方面に向かうルートに変化が生じ、富士市内の街道にも少なからず影響を与えたであろう。

富士川右岸の松野地区では、浅間林遺跡で多くの遺物が出土している。Ⅳ・Ⅴ期の遺物が多いが、中世全般にわたる遺物が確認できた。破摩射場遺跡では 12 世紀前半から遺物があり、中世前半が中心である。その他、半在家遺跡、荻館など館の伝承をもつ遺跡で、15 ～ 16 世紀の遺物が出土しているが、戦国時代の遺物に限らないため、伝承の時期とは異なっていることがわかってきた。これらも含め、蒲原から富士川沿いに芝川、甲斐方面に北上するルート、所謂身延道（河内路）に沿って点在する遺跡と捉えられる。

最後に、蔵骨器などの出土位置を確認しておこう。発掘調査による出土状況は不明瞭ながら、今井五輪塔群、沢上遺跡、鎌研第 4 号墳で出土した常滑・渥美・古瀬戸の壺類は、蔵骨器もしくはその可能性が高いものである。医王寺経塚や出口遺跡の中世墓群も含めれば、これら宗教関連遺跡は、富士山麓に点在する傾向をみることができる。また、これらが中世に遡る寺院が山麓沿いに多く分布する傾向と一致していることもみてとれる。一方で、今井五輪塔群は他と異なる位置にあり、妙法寺と関連する可能性もあるものの、むしろ吉原宿や湊との関連をう



1. 今井五輪塔群　2. 元吉原宿遺跡　3. 三新田遺跡　4. 柏原遺跡（4 地区）　5. 善得寺城跡・東泉院跡
6. 東平遺跡（28 地区）　7. 東平遺跡（3 地区）　8. 三日市廃寺跡（東平 16 地区）　9. 出口遺跡
10. 中原遺跡（富士市）　11. 浅間林遺跡　12. 半在家遺跡　13. 萩館　14. 破魔射場遺跡　15. 沢上遺跡
16. 鎌研 4 号墳（念信園古墳）　17. 医王寺経塚　18. 元富士大宮司館跡（大宮城）　19. 浅間大社（市・県）
20. 中原遺跡（沼津市）　21. 西通北遺跡　22. 興国寺城跡

第 41 図　遺跡の位置と中世の街道

かがわせる立地である。

今回抽出した遺跡は古代東海道やそこから派生する中道往還・身延道沿いなどに分布していることが確認できた。古代東海道は吉原付近から北西に進み、富士郡家である東平遺跡を通過した後、富士川を渡り、蒲原方面に南進するルートが想定されている。中世の東海道も基本的にはこれを踏襲していたであろう。しかし、第3節で大高氏が詳述しているように、中世においては富士川を渡るルートは1つには限られなかった。古代東海道ルートのほかに、たとえば徒歩で富士川河口も「十五瀬をわたり」、おそらくは田子の浦砂丘上か富士川氾濫原の微高地上をたどり元吉原地区に至るルートがあった(『十六夜日記』など)。また、治承4年（1180）に伊豆で頼朝が旗揚げした折に従軍した武士の中に、現在の鮫島地区付近を本拠にした鮫島氏の名前がみえる。さらに『平家物語』では、同年10月の富士川の戦いで、賀島地区に頼朝が20万という大軍を置き平家軍と対峙したことが語られている。頼朝は富士川氾濫原を通るいくつかのルート上に軍を配置した可能性が考えられる。

中世後期には、蒲原から船で吉原湊へ渡った記録（『東国紀行』）や、それに従事した矢部氏の存在も史料からわかる。また、吉原湊口には、元吉原宿に先行して置かれたという「見附」や、旅人の生贄伝説と関連する「阿字神社」があり、交通上の要所であったことが指摘されている(鈴木1981)。戦国時代には、元吉原地区に今川氏、北条氏、豊臣氏が在陣したという史料が多くあり、また、天の香具山砦と呼ばれる遺跡も存在する。ただし、周辺で城跡の発掘調査等は行われたことがなく、実態は不明である。いずれにしても、領国境界域に位置し、湊に近いこの地が重要な戦略拠点であったことは間違いない。

しかし、現在、富士川と元吉原の間の田子浦地区の中世の考古学的情報は皆無であり、海路や当時の湊についても、現在地形が大きく変えられているため検証は困難である。

以上のように、中世の吉原湊・宿は、東海道、潤井川の渡船や海路など、多くの交通の結節点に位置する流通の要であった。富士塚もしくはその前身となるモニュメントが中世まで遡るかは現状では明らかにできないが、この場所が古代・中世・近世を通じて、地域の中で、もしくはこの地を行き来する人々にとって意識されてきたことは指摘できるであろう。

おわりに

本稿では、中世陶磁器の分析を行い、富士市および周辺地域の遺跡の消長、分布を整理した。今回は根方街道沿いの遺跡の分析には至らなかったが、各街道に沿う遺跡の分布や文献史料から、根方街道にも同様に集落遺跡や寺社が存在することが想定できる。今後は、根方街道を含め、同様の分析視点で中世の様相を検討することが課題である。

【註】

1　中野晴久氏のご教示による。

2　藤澤良祐氏のご教示による。

3　調査時の遺跡名称は伝法遺跡群B地区である（富士市教育委員会1981a）

4　調査時の遺跡名称は伝法遺跡群C･D地区である（富士市教育委員会1981a・b）

【参考文献】

海老沼真治　2008「古代・中世甲斐国交通官憲文献史料の概要」『古代の交易と道』山梨県立博物館

菊川町教育委員会　2000『横地城跡　総合調査報告書資料編』

菊川シンポジウム実行委員会　2005『陶磁器から見る静岡県の中世社会』

佐藤祐樹　2010「富士市岩本出土の古瀬戸」『平成14・20年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会

佐藤祐樹　2015「清水岩の上遺跡出土の弥生土器」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成24・25年度』富士市教育委員会

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2001『富士川ＳＡ関連遺跡　破魔射場遺跡　谷津原古墳群　北久保遺跡　遺構編・遺物編』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2009『浅間大社遺跡　山宮浅間神社遺跡』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2011『西通北遺跡　平成20～22年度ＪＲ東海道線本線・ＪＲ御殿場線緊急地方道路整備事業（街路Ｂ）　平成21年度ＪＲ東海道線本線・ＪＲ御殿場線都市高速鉄道高架事業（新車両基地）　建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

静岡県　1992『静岡県史』資料編3 考古三

静岡県考古学会　1997『静岡県における中世墓』
鈴木富男　1981『鈴川の歴史』鈴川区管理委員会
駿河郷土史研究会　1989『富士市の仏教寺院』
中野晴久　2005「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川シンポジウム実行委員会
中野晴久　2012「第１章 総論　第３節渥美窯」「編年表」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県
沼津市教育委員会　2013『西通北遺跡』
沼津市教育委員会　2016『中原遺跡』
富士川町　1968『富士川町史』追補
富士川町教育委員会　1979『ふるさと富士川』第１集
富士川町教育委員会　1981『浅間林遺跡発掘調査概報　静岡県庵原郡富士川町　県道富士川・身延線道路改良工事地内での調査』
富士川町教育委員会 1986『半在家県道富士川・身延線改良工事に伴う発掘調査報告書』
富士川町教育委員会　1991『浅間林　県道富士川・身延線道路改良に伴う第４次発掘調査概報』
藤澤良祐　2005「瀬戸美濃と志戸呂・初山」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川シンポジウム実行委員会
藤澤良祐　2007「第１章 総論」「編年表」『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』愛知県
富士市教育委員会　1981a『西富士道路（富士地区）岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書　横沢古墳・中原１号墳・伝法遺跡群（伝法Ａ～Ｅ地区）・天間地区』
富士市教育委員会　1981b『西富士道路（富士地区）岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書　東平遺跡』
富士市教育委員会　1983『三新田遺跡発掘調査報告書』
富士市教育委員会　2000『三新田遺跡（Ｄ地区）発掘調査報告書』
富士市教育委員会　2001『東平遺跡　第28地区発掘調査報告書』（東平28地区）
富士市教育委員会　2002『東平遺跡　第16地区（三日市廃寺跡），第27地区発掘調査報告書』
富士市教育委員会　2012「15. 柏原遺跡第３地区」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成11・12年度』
富士市教育委員会　2013「第４章　柏原遺跡の調査」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成22・23年度』
富士市教育委員会　2014『六所家総合調査報告書　埋蔵文化財』（善得寺城跡・東泉院跡）
富士市教育委員会　2015「28. 元吉原宿遺跡　第３地区」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成24・25年度』
富士市教育委員会　2016『六所家総合調査報告書　埋蔵文化財②』
富士宮市教育委員会 1996『浅間大社遺跡　－神田川ふれあい広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（1・2次調査）
富士宮市教育委員会　1996『浅間大社遺跡』
富士宮市教育委員会　2000『元富士大宮司館跡　－大宮城跡にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書－』
富士宮市教育委員会　2003『浅間大社遺跡Ⅱ』(3･4次調査)
富士宮市教育委員会　2005「浅間大社遺跡　第５次」『富士宮の遺跡Ⅲ　ワラビ平遺跡　塚本古墳第２次　浅間大社遺跡第５次　発掘調査報告書』（５次調査）
富士宮市教育委員会　2013『浅間大社遺跡Ⅲ　－国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（湧玉池内）
富士宮市教育委員会　2014『元富士大宮司館跡Ⅱ　－大宮城跡にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書－』
藤村　翔　2016「富士市域の中世墓～今井中世五輪塔群・沢上遺跡出土資料の紹介～」『富士山かぐや姫ミュージアム　館報　第31号（平成29年度）』
松井一明 木村弘之 溝口彰啓 篠ヶ谷路人 椿原靖弘　2007「駿河中･西部地域の中世石塔の出現と展開」『静岡県博物館協会研究紀要』第30号 静岡県博物館協会
溝口彰啓　2009「遠江・駿河の石塔」『東海地域における中世石塔の出現と展開』石造物研究会第10回研究会資料
溝口彰啓　2012「東海〈遠江・駿河・伊豆〉」『中世石塔の考古学』高志書院
安井俊則　2012「第１章 総論　第２節 渥美窯」「編年表」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県
渡井英誉 佐野恵里　2003「信仰遺跡の変遷」『富士宮の遺跡Ⅱ－富士宮市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』富士宮市教育委員会

第４表　貿易陶磁出土状況

遺跡名	Ⅰ期 11C 後 ～ 12C 前	Ⅱ期 12C 後 ～ 13C 前	Ⅲ期 13C 中 ～ 14C 前	Ⅳ期 14C 後 ～ 15C 中	Ⅴ期 15C 後 ～ 16C 前	Ⅵ期 16C 中 ～ 16C 末	出土数	特筆すべき遺物
元吉原宿遺跡							0	
三新田遺跡		○					1	
柏原遺跡（4 地区）							0	
善得寺城跡・東泉院跡							0	
東平遺跡（３地区）		○	○		○		18	天目茶碗
東平遺跡（28 地区）		○	○				11	
三日市廃寺跡 (東平 16 地区)							0	
出口遺跡							0	
中原遺跡							0	
浅間林遺跡		○	○				7	
半在家遺跡		○	○				2	
荻館			○				1	
破魔射場遺跡	○	○					7	
沢上遺跡		○	○				4	
今井五輪塔群							－	
鎌研４号墳 (念信園古墳)							－	
医王寺経塚		○					－	白磁合子　２合
浅間大社 (市・県)	○	◯	◯	○	○		169	白磁四耳壺 青白磁梅瓶 天目茶碗
元富士大宮司館跡 (大宮城)	○	○	○	○	○		373	青白磁梅瓶・合子 天目茶碗 黄釉盤 高麗青磁皿
中原遺跡	○	○	○		○		－	
西通北遺跡（市・県）	○	◯	◯	○	○		91	青白磁梅瓶

第５表　瀬戸美濃出土状況（志戸呂・初山含む）

遺跡名	Ⅰ期 11C 後 ～ 12C 前	Ⅱ期 12C 後 ～ 13C 前	Ⅲ期 13C 中 ～ 14C 前	Ⅳ期 14C 後 ～ 15C 中	Ⅴ期 15C 後 ～ 16C 前	Ⅵ期 16C 中 ～ 16C 末	出土数	特筆すべき遺物
元吉原宿遺跡						○	2	
三新田遺跡					○	○	6	
柏原遺跡（4 地区）							0	
善得寺城跡・東泉院跡				○	○	○	5	
東平遺跡（３地区）			○	◯	◯	○	87	
東平遺跡（28 地区）			○	○	○		23	
三日市廃寺跡 (東平 16 地区)							0	
出口遺跡			○			○	2	古瀬戸中期梅瓶
中原遺跡				○	○	○	4	
浅間林遺跡			○	◯	◯	○	65	古瀬戸中期瓶類
半在家遺跡					○		2	
荻館					○	○	12	
破魔射場遺跡				○			2	
沢上遺跡							0	
今井五輪塔群							－	
鎌研４号墳 (念信園古墳)		○					－	古瀬戸前期四耳壺・瓶子
医王寺経塚							－	
浅間大社　（市・県）		○	○	◯	◯	○	116	古瀬戸前期卸皿
元富士大宮司館跡 (大宮城)		○	○	◯	◯	○	324	古瀬戸前期四耳壺・梅瓶・水注
中原遺跡		○	○	○	○	○	－	
西通北遺跡　（市・県）				○	◯	○	35	古瀬戸小瓶

第６表　東海系陶器出土状況（常滑・渥美他）

遺跡名	Ⅰ期 11C後 ～12C前	Ⅱ期 12C後 ～13C前	Ⅲ期 13C中 ～14C前	Ⅳ期 14C後 ～15C中	Ⅴ期 15C後 ～16C前	Ⅵ期 16C中 ～16C末	出土数	特筆すべき遺物
元吉原宿遺跡							0	
三新田遺跡		○	○	○			8	
柏原遺跡（4地区）		○					2	
善得寺城跡・東泉院跡		○	○	○	○		10	
東平遺跡（3地区）		○	○		◯		29	
東平遺跡（28地区）		○	◯	◯	○		66	
三日市廃寺跡 (東平16地区)					○		1	
出口遺跡					○		1	
中原遺跡		○					1	
浅間林遺跡		○	○	◯	○		34	常滑三筋壺
半在家遺跡							0	
荻館			○				2	
破魔射場遺跡		○					11	常滑三筋壺
沢上遺跡		○	○	○			3	渥美刻文小壺
今井五輪塔群		○					－	常滑三筋壺
鎌研４号墳 (念信園古墳)							－	
医王寺経塚							－	
浅間大社（市・県）	○	◯	◯	○	○	○	569	
元富士大宮司館跡 (大宮城)		◯	○	○	○		1280	
中原遺跡		○	○	○			－	
西通北遺跡（市・県）		○	◯	○	○		82	

第７表　まとめ

遺跡名	Ⅰ期 11C後 ～12C前	Ⅱ期 12C後 ～13C前	Ⅲ期 13C中 ～14C前	Ⅳ期 14C後 ～15C中	Ⅴ期 15C後 ～16C前	Ⅵ期 16C中 ～16C末	その他の遺物
元吉原宿遺跡						●	
三新田遺跡		●	●	●	●	●	
柏原遺跡（4地区）		●					
善得寺城跡・東泉院跡		●	●	●	●	●	
東平遺跡（3地区）		●	●	⬤	⬤	●	硯
東平遺跡（28地区）		●	⬤	⬤	●		
三日市廃寺跡 (東平16地区)					●		
出口遺跡			●			●	銭貨伴う中世墓
中原遺跡		●		●	●		
浅間林遺跡		●	●	⬤	⬤	●	東遠江系山茶碗　滑石製鍋 茶臼
半在家遺跡		●	●		●		
荻館			●	●	●	●	
破魔射場遺跡	●	●		●			
沢上遺跡		●	●	●			
今井五輪塔群		●					
鎌研４号墳 (念信園古墳)		●					
医王寺経塚		●					
浅間大社（市・県）	●	⬤	⬤	⬤	●	●	かわらけ大量出土
元富士大宮司館跡 (大宮城)	●	⬤	⬤	⬤	⬤	●	南伊勢系鍋 瓦質火鉢・風炉・ 鉢 かわらけ大量出土
中原遺跡	●	●	●	●	●	●	
西通北遺跡（市・県）	●	⬤	⬤	●	⬤	●	南伊勢系鍋 軒平瓦